

## 日本語の比較構文についての一考察

上山, あゆみ

九州大学大学院人文科学研究院文学部門言語学 : 助教授 : 生成文法, 日本語統語論

<https://doi.org/10.15017/4974>

---

出版情報 : 文學研究. 101, pp.45-67, 2004-03-31. 九州大学大学院人文科学研究院  
バージョン :  
権利関係 :

# 日本語の比較構文についての一考察

上 山 あゆみ

## 1. 比較構文の種類と構造

英語における研究では、Bresnan 1973, 1975, Chomsky 1977以来、しばしば比較構文というものが取り上げられている。一般には、比較構文というと、(1)のように *than* の後に単なる名詞句が続くものを想起するかもしれない<sup>1</sup>。

### (1) NP comparative:

- a. John is taller than Bill.
- b. John plays tennis better than Bill.
- c. The Cubs won more games this year than the Sox.

しかし、生成文法では、このような構文よりも、*than* に節が後続するタイプの比較構文が注目されてきた<sup>2</sup>。たとえば、比較対象となっている要素が「省略」されている以外は *than* に続く部分が完全な文の形であらわれる構文がある。このような構文は、comparative deletion (CD) と呼ばれる。

### (2) Comparative deletion (CD):

- a. Mary is taller than John is.
- b. Light travels more quickly than sound travels.

c. The Cubs won more games this year than they won last year.  
それぞれ比較対象になっているのは、(2a)では tall という形容詞、(2b)では quickly という副詞、(2c)では (many) games という名詞であるが、CD で注目すべきなのは、(2)で「省略」されている要素を補うと、非文になるということである。

- (3) a. \*Mary is taller than John is tall.  
b. \*Light travels more quickly than sound travels quickly.  
c. \*The Cubs won more games this year than they won them last year.

また、CD とは異なり、比較対象となっているもののうち、度合や量の部分だけが「省略」されている構文もある。これは comparative subdeletion (CSD) と呼ばれる。

- (4) Comparative subdeletion (CSD):  
a. The table is longer than the door is wide.  
b. Jones drives as carelessly as Smith drives carefully.  
c. We own more books than they own magazines.

CD の場合と同様、CSD の「省略」も義務的である。すなわち、次のような構文は認められない。

- (5) a. \*The table is longer than the door is {that/very/3 feet} wide.  
b. \*Jones drives as carelessly as Smith drives {so/quite/too} carefully.

- c. \*We own more books than they own {many/few/two} magazines.

(1)の構文の場合には、than が単に前置詞で、補語として名詞句をとっているだけという可能性もあり、その場合、統語的な操作は特に何も適用していないことになるが、(2)の CD や(4)の CSD の場合は、その形成に必ず空演算子 (empty operator) の移動が関わっていると考えられている。その1つの根拠は、(3)や(5)で示したように、「省略」されている要素を補った文が非文になるという観察であった。つまり、空演算子があるべき場所を別の要素が占めてしまっており、空演算子の移動が生起できないために非文になるという分析である。また、(6)に示すように、CD や CSD の「省略」部分がいわゆる「島」の中にあってはいけないという観察も、空演算子の移動を仮定すると、無理なく説明することができる。

- (6) a. I'll have to give as many F's as you've proposed to give [e A's]  
 b. \*I'll have to give as many F's as you've discussed [<sub>NP</sub> a proposal to give [e A's]]

(Bresnan (1975) cited in Pesetsky (1982 : 396))

空演算子の統語特性を明らかにすることは、文法研究の中で重要視されている問題の1つであり、その観点から、英語の CD や CSD などの構文はよく分析の対象にされてきた。

では、日本語には、英語の CD, CSD と同じように空演算子の移動が起こっている比較構文はあるのだろうか。この小論では、従来、日本語の CD とみなされてきた構文が必ずしも空演算子の移動が関わるとは言えないことを示し、その上で、空演算子の移動が関わる構文の新たな見分け方として1つの方向性を示唆したい。第2節では、Kikuchi 1987で日本語の CD であると言われた構文を取り上げ、それが英語の CD とは異なる特性を持っていること

を示す。そこで新たに指摘されている観察は、一見、日本語の比較構文には空演算子の移動が関わらないということを示しているように見えるものであるが、実は、空演算子の移動が関わる比較構文とそれが関わらない比較構文の両方が存在するという仮説を否定するものではない。第3節では、比較構文の意味解釈を調べ、日本語の比較構文には、空演算子の移動が関わるものも存在するという仮説を支持する観察を提示する。

## 2. 日本語の CD と言われている構文の再検討

### 2.1. 日本語の比較構文

日本語の場合、比較構文としては、「より」という助詞を用いた構文が想起される<sup>3</sup>。「より」は、(7)のように名詞に直接後続する場合もあれば、(8)のように動詞に後続する場合もある。

- (7) a. ジョンは [メアリ] より賢い  
b. ジョンは [メアリ] より頭が 良い  
c. ジョンは [メアリ] よりたくさん 本を 持っている
- (8) a. [歩く] よりバスに乗る方が 楽だ  
b. [ジョンが 25メートル泳ぐ]より メア리가 50メートル走る方が  
時間がかかる  
c. [マリオが 全盛期にこの曲を歌った]より 今日の君の方が素晴らしい

一見したところ、(7)は(1)の NP comparative に相当しているので、CD に相当する可能性があるとするれば、(8)のような場合であろう。実際、Kikuchi 1987では、日本語にも CD に相当する構文が存在するとして、(9)のような比較構文をあげている。

- (9) a. [ジョンに話しかけた] より (も) ずっとたくさんの人がトムに話しかけた (Kikuchi 1987: 2 (2a))  
b. ジョンは [トムが ドアを たたいた]より (も) ずっと乱暴に窓をたたいた (Kikuchi 1987: 2 (2b))

Kikuchi 1987で主張されているのは、日本語にも、英語と同様、空演算子の移動が関わる構文があるということである。具体的には、主に(10)のような論拠に基づいて、(9)の比較構文が英語のCDに相当すると主張されている<sup>4</sup>。

- (10) a. (9)の構文では、英語のCDと同様、比較対象となっている要素が空所でなければならない。  
b. (9)の構文は、英語のCDと同様、「島の制約」に従う。  
c. (9)の構文は、英語のCDと同様、弱交差現象を示す。

確かに、意味機能としては、(9a)は(2c)に、(9b)は(2b)に対応しているように見える。しかし、(9)の例文に空演算子の移動が関わっているということは確認できるのだろうか。以下、(10)で言及されている観察について1つ1つ見直していく。

## 2.2. 空所の存在は必須か

まず、(10a)から始める。

- (10) a. (9)の構文では、英語のCDと同様、比較対象となっている部分が空所でなければならない。

英語のCDやCSDの場合、空演算子の移動が関与しているという分析の根拠の1つは、(3)や(5)で示したように、比較節の中に空の位置が義務的に存

在していなければならないということであった。そこで、Kikuchi 1987が(10a)の証拠としてあげている例文は、以下のようなものである。

- (11) a. ジョンが [メアリが持ってる] より (も) たくさん 本を持ってる  
(Kikuchi 1987 : 1 (1c))  
b. \*ジョンが [メアリが本を持ってる] より (も) たくさん 本を持  
てる (cf. Kikuchi 1987 : 4 (12))

確かに(11b)の容認可能性は低いかもしれない。しかし、同様の構文で空所がないように見えるにもかかわらず、容認可能な例もある。

- (12) ジョンは [メアリが本をカードで買う] より (も) たくさん 現  
金で本を買う

これは一見、日本語の比較構文において空演算子の移動が起こっているという仮説の反例になると思うかもしれないが、必ずしもそうとは限らない。(11b)と(12)は実は異なる構文であり、(11b)では、実際、空演算子の移動が起こっているという可能性もあるからである。

ここで注目されるのは、(12)は(13)のように、形式名詞を用いた「言い換え」が可能であるのに対して、(11b)は同様の言い換えが難しいということである。

- (13) cf. (12)

ジョンは [メアリが本をカードで買う 場合/時] より (も) たく  
さん 現金で本を買う

(14) cf. (11b)

???ジョンが [メアリが本を持ってる **場合/時**] より (も) たくさん 本を持ってる

実は、「より」が動詞に後続している比較構文でも、多くの場合、形式名詞を用いた言い換えが可能である。

(15) cf. (8)

- a. [歩く **の**] より バスに乗る方が 楽だ
- b. [ジョンが 25メートル泳ぐ **場合**] より メアリが 50メートル走る場合の方が 時間がかかる
- c. [マリオが 全盛期にこの曲を歌った **時**] より 今日の君の方が素晴らしい

(16) cf. (9)

- a. [(人々が) ジョンに話しかけた **時**] より (も) ずっとたくさんの人がトムに話しかけた
- b. ジョンは [トムが ドアを たたいた **時**] より (も) ずっと乱暴に窓をたたいた

(15)や(16)の場合、「より」に先行しているのは形式名詞を主要部とする名詞句である。したがって、これらの場合は、むしろ(1)や(7)と同じ NP comparative であると考えるのが妥当かもしれない<sup>5</sup>。そうすると、音形として形式名詞が生起していないように見える(8)や(9)の場合でも、それが NP comparative でないかどうかは自明ではない。もし、空の (=音形の無い) 形式名詞が存在するとしたら、「より」が動詞に後続しているように見えても、実際には NP comparative であるという可能性が排除できないからである。



このように考えると、(12)の容認可能性が高いのは、これがCDではなく、実はNP comparativeだからであるという説明ができるかもしれない。NP comparative ならば空演算子が関与しない構文ということになり、空所がなくとも成り立つことが予想される。実際、日本語の比較構文の場合、節が「より」に先行しているように見える場合でも、その節の中に空演算子の生起すべき位置が見当たらない例がいろいろ見つかるが、どの例でも、形式名詞による言い換えが可能である。

- (17) a. メアリは[カール・ルイスが 100メートル走る]より たくさん(の) お客を集めた  
b. ジョンは [メアリが全速力で 50メートル走る] より 速いラップで 1000メートルを走りきる  
c. これは [サンマを焼く] より、においがきつい
- (18) a. メアリは [カール・ルイスが 100メートル走る] 時/場合 より たくさん (の) お客を集めた  
b. ジョンは[メアリが全速力で 50メートル走る] 時/場合 より 速いラップで 1000メートルを走りきる  
c. これは [サンマを焼く] 時 より、においがきつい

これに対して、(11b)の場合は(14)の容認可能性も低いので、(隠れた)NP comparative である恐れは少ないと言ってもいいかもしれない。つまり、次の(19)のように仮定すれば日本語にも空演算子の移動が関わるCDが存在するという仮説は否定されないことになる。

- (19) 「より」が動詞に後続する比較構文に2種類あり、形式名詞による言い換えが可能なものはNP comparativeで、不可能なものはCDである。

もちろん、問題は、どのような場合に「形式名詞による言い換えが不可能」であるか、その条件を明示的にできるかどうかということである。(14)は単に冗長なために容認性が低いという可能性もあり、NP comparativeとは考えられない比較構文を選り分ける手段がない限り、(19)の主張を積極的に裏付ける証拠もないということになってしまう。その区別の方法については、第3節で議論するが、その前に、(11b, c)の特性についても再検討しておく。

### 2.3. 「島の制約」の効果は見られるか

次に(10b)に関する観察を見てみよう。

- (10) b. (9)の構文は、英語のCDと同様、「島の制約」に従う。

「島の制約」とは、「島」と呼ばれる特定の構成素の中からは演算子等を移動によって抜き出すことができないということを述べたもので、英語において空演算子が関わりと分析される構文で広く観察されている現象である。Kikuchi 1987は、まず、この構文が(20)のように節境界を越えることもあるということを指摘した上で、(21)のような「島」の中に出てくると容認可能性が低くなるということを述べている。

- (20) a. [[[ジョンが *ec* 読んだと] 言われていると] みんなが思っている]  
よりも、メアリはたくさん本を読んでいる

(Kikuchi 1987 : 4 (13))

- b. [みんなが [ポールが *ec* 読んだという噂] を信じている] よりも、  
ジョンはたくさん本を読んでいた (Kikuchi 1987: 7 (23))
- c. ポールは [[ジョンが *ec* 読んだこと] が明らかな] よりも、たく  
さん本を読んでいた (Kikuchi 1987: 7 (25))

(21) a. 関係節:

\*[[その机で *ec* 読んでいた人] をジョンがなぐった] よりも、ポー  
ルはたくさん本を読んでいた (Kikuchi 1987: 4 (14))

b. 副詞節:

\*[[ジョンが *ec* 読んでいた時に] 地震が起きた] よりも、ポールは  
はるかにたくさん本を読んでいた (Kikuchi 1987: 4 (15))

c. 間接疑問文:

\*[みんなが [なぜポールが *ec* 読んだか] 不思議に思った] よりも、  
ジョンはたくさん本を読んでいた (Kikuchi 1987: 6 (22))

ところが、この場合も、前節で述べた「形式名詞による言い換え」との相  
関が見られる。(20)は形式名詞を使った言い換えが可能であるのに対して、  
(21)はその言い換えが困難なのである。

(22) cf. (20)

- a. [[[ジョンが *ec* 読んだと] 言われていると] みんなが思っている  
冊数] よりも、メアリはたくさん本を読んでいる
- b. [みんなが [ポールが *ec* 読んだという噂] を信じている 冊数] よ  
りも、ジョンはたくさん本を読んでいた
- c. ポールは [[ジョンが *ec* 読んだこと] が明らかな 冊数] よりも、  
たくさん本を読んでいた

(23) cf. (21)

- a. \*[[その机で *ec* 読んでいた人] をジョンがながった] 冊数 よりも、ポールはたくさん本を読んでいた
- b. \*[[ジョンが *ec* 読んでいた時に] 地震が起きた] 冊数 よりも、ポールは はるかにたくさん本を読んでいた
- c. \*[[みんなが [なぜポールが *ec* 読んだか] 不思議に思った] 冊数 よりも、ジョンはたくさん本を読んでいた

なぜ(23)の容認可能性が低いのかということについては不明であるが、似た構文であっても、形式名詞の挿入ができるような例にすると、「島の制約」の効果は見られなくなる。

(24) 関係節：

- a. [[一ヶ月で *ec* 読破した人] をジョンが羨ましがった] ページ数
- b. [[一ヶ月で *ec* 読破した人] をジョンが羨ましがった] より たくさんページの数をメアリは一週間で読破した

(25) 副詞節：

- a. [[ジョンが *ec* 申請している時に] 会社がつぶれた] 契約件数
- b. ポールは、[[ジョンが *ec* 申請している時に] 会社がつぶれた] より はるかにたくさん契約をおじゃんにしてしまった

(26) 間接疑問文：

- a. [みんなが [どうやってポールが *ec* 読んだか] 不思議に思った] 冊数
- b. [みんなが [どうやってポールが *ec* 読んだか] 不思議に思った] よりも、ジョンはたくさん本を読んでいた

このように、「島の制約」に関しても、少なくとも、単に「より」の直前が動詞であるからと言って、英語の CD に相当する構文であるとは言い切れない。ここでも前節の(19)の仮説はくつがえされていない。

- (19) 「より」が動詞に後続する比較構文に2種類あり、形式名詞による言い換えが可能なものは NP comparative で、不可能なものは CD である。

#### 2.4. 弱交差現象は見られるか

最後に、(10c)について見ておく。

- (10) c. (9)の構文は、英語の CD と同様、弱交差現象を示す。

これに関して Kikuchi 1987で指摘されている例文は次のようなものである。

- (27) a. [[ジョンが落第したこと]が *ec* 驚かした] よりもはるかにたくさんの学生を [ビルが落第したこと] が驚かした

(Kikuchi 1987 : 5 (17))

- b. \*[[自分たち<sub>i</sub>が落第したこと]が *ec<sub>i</sub>* 驚かした] よりもはるかにたくさんの学生を [ビルが落第したこと] が驚かした

(Kikuchi 1987 : 5 (18))

しかし、Hoji 1995, 2003等で指摘されているように、弱交差現象の有無を調べる場合、「自分たち」という語を用いる方法には問題があるので、より適切な語に変えて観察してみると、(28)に示すように、弱交差現象は見られない<sup>o</sup>。

- (28) a. [ $ec_i$   $そこ_i$ の親会社を推薦した] よりもはるかにたくさんの会社がトヨタを推薦した
- b. [ $そこ_i$ の親会社が  $ec_i$  推薦した] よりもはるかにたくさんの会社をトヨタが推薦した

ただし、(29)に示してあるように、この場合も形式名詞による言い換えが可能である。

- (29) a. [ $ec_i$   $そこ_i$ の親会社を推薦した ところ] よりもはるかにたくさんの会社がトヨタを推薦した
- b. [ $そこ_i$ の親会社が  $ec_i$  推薦した ところ] よりもはるかにたくさんの会社をトヨタが推薦した

したがって、(19)の仮説に立つと、(28)も、日本語に CD に相当する構文があるという主張の反例にはならない。

## 2.5. まとめ

以上、Kikuchi 1987が、日本語にも CD に相当する構文が存在するとして指摘した(10)の3つの観察について見直し、少なくとも、単に「より」の直前が動詞であるからと言って、英語の CD に相当する構文であるとは言えないことを示してきた。

- (10) a. (9)の構文では、英語の CD と同様、比較対象となっている部分が空所でなければならない。
- b. (9)の構文は、英語の CD と同様、「島の制約」に従う。
- c. (9)の構文は、英語の CD と同様、弱交差現象を示す。

その観察の中で浮上してきた可能性は(19)である。

- (19) 「より」が動詞に後続する比較構文に2種類あり、形式名詞による言い換えが可能なものは NP comparative で、不可能なものは CD である。

ここまでの観察は(19)とは矛盾しないが、かといって、(19)の積極的な根拠となっているわけでもない。2.1節でも述べたように、(19)を仮定して日本語の比較構文に空演算子の移動に関わる構文があると主張するためには、他にもその構文を区別できる特性を見つけることが必要である。最後に、まったく別の手がかりによって、演算子移動の関わる比較構文を区別できる可能性があることを示唆しておきたい。

### 3. 演算子移動と含意の有無

#### 3.1. 比較構文における含意の有無

ここで、少し視点を変えて、比較構文の意味について考えてみたい。たとえば、(30)のような比較構文の場合、この文によって述べられているのは「ジョンの身長が花子の身長を上回っている」ということであって、必ずしも「ジョンは背が高い」ということではないということに注目してほしい。

- (30) John is taller than Hanako.

つまり、(30)には(31)の含意はないのである。

- (31) John is tall.

これは、CD や CSD の場合も同様である。

(32) CD:

- a. John has more books [than Mary has *ec*], but John has only three books.
- b. John is taller [than Mary is *ec*], but John is short as an American guy.
- c. John comes here more often [than Mary goes to school *ec*], but John seldom comes here.

(33) CSD:

- a. The door is wider [than the table is long], but this door is not wide compared to the standard.
- b. John has more books [than Mary has magazines], but John has only three books.

では、日本語の比較構文ではどうだろうか。(34)は「より」が名詞句に後続する場合、(35)は「より」が動詞に後続する場合であるが、どちらの場合も、それに続いて、含意を否定した文を加えることができる。

- (34) a. ジョンはメアリより背が高いが、アメリカ人としては背が低い。  
b. ジョンはビルより丁寧に先生に挨拶するが、二人とも丁寧とは言いがたい。  
c. ジョンはスーザンにメアリより高いプレゼントを買ったが、だからと言って、高価なものを買ったわけではない。  
d. ジョンはスーザンにメアリより難しい問題を出したが、だからと言って、難問を出したわけではない。



- (35) a. ジョンは [メアリが *ec* 持っている] より多くの言語学の本を買った。しかし、だからと言って、買った本が多かったわけではない。  
b. ジョンは [ビルがパリで *ec* 発表した] より多くの論文をアメリカで書いた。しかし、だからと言って、書いた論文が多かったわけではない。

しかし、すべての比較構文で含意の打ち消しが可能であるとは限らない。たとえば、Ishii 1991は、英語の(36)に相当する日本語の比較構文として(37)をあげているが、この比較構文では、(38)に示すように、問題となる含意を打ち消すことができないと思う。

(36) John bought a longer umbrella than Mary bought.

(Ishii 1991 : ch.3 (68))

(37) 太郎は [花子が *ec* 書いた] よりも長い論文を書いた。

(Ishii 1991 : ch.3 (85))

(38)と(39)を比べてほしい。

(38) a. ジョンはスーザンに [ビルがメアリに *ec* 買った] より高いプレゼントを買った。

#しかし、だからと言って、高価なものを買ったわけではない。

b. ジョンはスーザンに [ビルがメアリに *ec* 出した] より難しい問題を出した。

#しかし、だからと言って、難問を出したわけではない。

(39) a. ジョンはスーザンに [メアリ] より高いプレゼントを買った。

OKしかし、だからと言って、高価なものを買ったわけではない。

b. ジョンはスーザンに [メアリ] より難しい問題を出した。

OKしかし、だからと言って、難問を出したわけではない。

そこで、この含意の有無という観点から、2節での観察を見直してみたい。

### 3.2. 空所の存在の義務性

2.2節では、(12)を示して、「より」が動詞に後続する比較構文でも、空所が見当たらない場合があるということを指摘した。

(12) ジョンは [メアリが本をカードで買う] より (も) たくさん 現金  
で本を買う

ここで注目されるのは、(12)の文は、いわば「メアリは本をカードで買うが、ジョンは、それにもまして、多くの本を現金で買う」という解釈であり、含意の打ち消しができないのではないかということである。

(40) ジョンは [メアリが本をカードで買った] より 多くの本を 現金  
で買った。

#しかし、だからと言って、ジョンが買った本が多かったわけではない。

これに対して、空所を含む比較構文の場合には、含意の打ち消しが容易であると思う。

(41) ジョンは [メアリが ec カードで買った] より 多くの本を 現金で  
買った。

しかし、だからと言って、ジョンが買った本が多かったわけではない。

つまり、空演算子の移動が関わっている場合には、純粹に「メアリがカードで買った本の冊数」と「ジョンが現金で買った本の冊数」を比較するという意味解釈になり、その場合、後者が独立して「冊数が多い」と言えるかどうかは不問にふされるのに対し、空演算子の移動が関わっていない場合には、「メアリは本をカードで買う」「ジョンは、それにもまして、多くの本を現金で買う」という情報を含んだ複文となっており、それゆえ、「ジョンが買った本の冊数が多い」という含意を打ち消しにくいのではないだろうか。もし、(40)と(41)の判断の違いが安定しているならば、この含意の打ち消しということを利用して、空演算子の移動が関与している場合を選び出すことが可能かもしれない。

### 3.3. 「島の制約」

「島の制約」違反に見える文として2.3節で指摘したのは次のようなものであった。

- (24) b. [[一ヶ月で *ec* 読破した人] をジョンが羨ましがった] より たくさんのページ数をメアリは一週間で読破した
- (25) b. ポールは、[[ジョンが *ec* 申請している時に] 会社がつぶれた] より はるかにたくさんの契約をおじゃんにしてしまった
- (26) b. [みんなが [どうやってポールが *ec* 読んだか] 不思議に思った] よりも、ジョンはたくさん本を読んでいた

これらの場合も、含意の打消しが難しいと思う。

- (42) a. [[一ヶ月で *ec* 読破した人] をジョンが羨ましがった] より 多くのページ数をメアリは一週間で読破した。  
#しかし、だからと言って、メアリが読んだページ数が多かったわけではない。
- b. ポールは、[[ジョンが *ec* 申請している時に] 会社がつぶれた] より多くの契約をおじゃんにしてしまった  
#しかし、だからと言って、ポールがおじゃんにした契約件数が多かったわけではない。
- c. ジョンは、[みんなが [どうやってポールが *ec* 読んだか] 不思議に思ってた] よりも、多くの本を読んでいた  
#しかし、だからと言って、ジョンが読んだ本の数が多かったわけではない。

このことも、上で示唆した分析の方向性と一致する。「島の制約」に違反した構文の場合には、空演算子の移動が不可能なため、純粹に量を比較する構文にはなれず、主文の「多くのページ数をメアリは一週間で読破した」が持つ含意が消えないのである。

ただし、この点から見ると、2.3節の(20a)のように、必ずしも「島の制約」に違反していない場合でも含意が残るように思う。

- (20) a. [[[ジョンが *ec* 読んだと] 言われていると] みんなが思っている] よりも、メアリはたくさん本を読んでいる

(Kikuchi 1987: 4 (13))

- (43) メアリは、[[[ジョンが *ec* 読んだと]言われていると]みんなが思っている] よりも、多くの本を読んでいる。

#しかし、だからと言って、メアリが読んだ本の冊数が多かったわけではない。

(20a) ほどでなくても、節境界を1つ越えただけで違いがあるように思われてならない。

(44) a. [メアリが [ジョンが *ec* あやまったと] 思っている] より多くの人にトムはあやまった。

#しかし、だからと言って、トムがあやまった人の人数が多いわけではない。

b. [ジョンが *ec* あやまった] より多くの人にトムはあやまった。

しかし、だからと言って、トムがあやまった人の人数が多いわけではない。

もし、この観察が正しいとするならば、この比較構文に関与する空演算子の移動は、節境界を越えることのないものだけということになる。そうだとすると、英語の *wh* 疑問文などとは異なった性質を示すということになるが、空演算子のかかわる現象の中には、節境界を越えることのできないものがあることは知られているので、空演算子の分析そのものが却下されたことにはならないであろう。

### 3.4. 弱交差現象

最後に、弱交差現象と含意の有無について見ておく。2.4節では、(28b)を示して、弱交差現象が見られないと述べたが、(45a)と(45b)とでは、含意の打ち消しの難易度に差があるように思われる。

(28) b. [そこ<sub>i</sub>の親会社が  $ec_i$  推薦した] よりもはるかにたくさんの会社をトヨタが推薦した

(45) a. [ $ec_i$  そこ<sub>i</sub>の親会社を推薦した] よりも多くの会社がトヨタを推薦した。

しかし、トヨタを推薦した会社の数が多かったとは言えない。

b. [そこ<sub>i</sub>の親会社が  $ec_i$  推薦した] よりも多くの会社をトヨタが推薦した。

#しかし、トヨタが推薦した会社の数が多かったとは言えない。

もし、(45b)で含意の打ち消しができないということであるならば、これも、空演算子の移動の有無と関係がある可能性がある。ただし、空演算子が関与するすべての構文で弱交差現象が見られるとも限らないので、この現象については、さらなる考察が必要である。

#### 4. 結語

以上、日本語の比較構文で空演算子の移動がかかわるものが存在するとしたら、どのような構文であるかという問題について、現時点での考察を述べてきた。前半では、Kikuchi 1987, Ishii 1991等で主張されているのとは異なり、一見「より」が節に後続しているように見える場合でも、その比較構文に空演算子の移動が関与しているとは限らないということを示した。そして後半では、含意の有無に注目することによって、空演算子の移動が関わる比較構文を選り出せる可能性があるということを示唆した。

現時点では、この含意の有無ということを手がかりの1つにしていけるのではないかと考えているが、本小論で述べた容認性の差は、話者によっては、必ずしも明確なものでないかもしれない。実際に様々な比較構文を調べていく際に、どのようなことに気をつけてテストを行うべきか、さらなる調査と

考察が必要だと考えている。

## 注

- \* 本稿は、1998年12月に九州大学で行われた、科学研究費補助金(国際学術研究) *Comparative Syntax of Japanese, Korean, Chinese and English*, No. 08044009 の研究打ち合わせ会において発表した内容をまとめ直したものである。そのプロジェクトのメンバー、特に Hajime Hoji 氏に負うところが大きい。ここに記して感謝する。
- 1 (1)から(5)の英語の例文は、Kennedy (1997, 1998ab)による。
  - 2 本文では紹介していないが、(2)や(4)とは異なり、残っていても構わない要素も含めて「省略」されている、(i)のような比較構文もある。これは、しばしば comparative ellipsis と呼ばれる。
    - (i) Comparative ellipsis:
      - a. John plays tennis better than Bill does.
      - b. The Cubs won more games this year than the Sox did.
      - c. The Cubs won more games this year than anyone expected.
      - d. The Cubs won more baseball games this year than they did coin tosses last year.

comparative ellipsis は統語的に非常に興味深い特性を示す構文であるが、これには、さらに別の様相が関わってくるので、ここでは扱わない。

また、(1)のような NP comparative も comparative ellipsis という名称で呼ばれる場合もあるが、than に名詞句が後続する場合と節が後続した場合は区別するべきであるという意見も多い。
  - 3 「より」という助詞に「は」や「も」が後続する場合もあり、それによって影響が出る場合もある可能性があるが、その違いについてはさらなる考察を必要とするので、以下では、そのような例文は扱わない。
  - 4 Ishii 1991では、さらに別のタイプの比較構文もとりあげられているが、(11)の観察とその結論については Kikuchi 1987に賛同している。また、Kikuchi 1987では、(10)にあげた以外に、いわゆる寄生空所 (parasitic gap) の生起可能性についても言及されているが、どのようなものを寄生空所とみなすかということについても問題があるため、ここではふれないことにする。
  - 5 Hoji 1998で述べられているように、「ジョンにより」のように「より」の前に別の格助詞がある場合には、LF において「より」に先行する部分が名詞句ではなく節になっていると考えられる証拠がある。しかし、注1で述べたように、ここでは、このような comparative ellipsis の場合については、ひとまずおいておく。
  - 6 日本語における弱交差現象全般については、Ueyama 1998を参照してほしい。

## 参考文献

- Bresnan, Joan (1973) "Syntax of the comparative clause construction in English," *Linguistic Inquiry*, 4-3, pp.275-343.
- Bresnan, Joan (1975) "Comparative Deletion and Constraints on Transformations," *Linguistic Analysis* 1, pp.25-74.
- Chomsky, Noam (1977) "On Wh-Movement," in P. Culicover, T. Wasow, & A. Akmajian, eds., *Formal Syntax*, Academic Press, New York, pp.71-132.
- Hoji, Hajime (1995) "Demonstrative Binding and Principle B," *NELS* 25, pp. 255-271.
- Hoji, Hajime (1998) "Null Object and Sloppy Identity in Japanese," *Linguistic Inquiry* 29-1, pp.127-152.
- Hoji, Hajime (2003) "Falsifiability and Repeatability in Generative Grammar: A Case Study of Anaphora and Scope Dependency in Japanese," *Lingua*, vol.113, No.4-6, pp.377-446.
- Ishii, Yasuo (1991) *Operators and Empty Categories in Japanese*, Doctoral dissertation, The University of Connecticut.
- Kennedy, Christopher (1997) *Projecting the Adjective: The Syntax and Semantics of Gradability and Comparison*, Doctoral dissertation, University of California, Santa Cruz, distributed by SLUG Pubs, USCS.
- Kennedy, Christopher (1998a) "Local Dependencies in Comparative Deletion," *WCCFL* 17.
- Kennedy, Christopher (1998b) "New and Old Perspectives on Comparative (Sub) Deletion," handout of the talk delivered at the University of Massachusetts, 9 October 1998.
- Kikuchi, Akira (1987) "Comparative Deletion in Japanese," ms., Yamagata University.
- Pesetsky, David (1982) *Paths and Categories*, Doctoral dissertation, Massachusetts Institute of Technology, Cambridge.
- Ueyama, Ayumi (1998) *Two Types of Dependency*, Doctoral dissertation, University of Southern California, distributed by GSIL publications, University of Southern California, Los Angeles.